

心をよつめる

その十九

北九州市内・近郊の寺院の僧侶にお言葉をいただくコーナーです。老後を心豊かに生きるためのヒントとなりますように・・・。

備えあれば・・・

過去にブログでも取り上げたのですが、以前私はある貴重な体験をさせていただきました。

ある日、私は檀家様のお葬儀をお勤めしたのち寺へ戻ると、男性が本堂の扉を開けようとする姿が運転席から見えました。すぐにアジア系の若者だとわかり、本能的に不審者の可能性も捨てきれないと感じた私は、慌てて車を降り「どうされました？」と声を掛けました。すると彼は「おじいさんがなくなりました。よろしくおねがいします。」と少したどたどしい日本語でその言いました。

「本堂にお参りしたいのですか？」と問いかけると首を縦に振りました。彼は半年前に日本に来られたベトナムの方で名をグエンさんといいました。

大変失礼なことだと思うのですが、まだその段階では少し警戒していません。それでも本堂の扉を開け彼を中へ



と案内しました。中央の香炉の前で線香をあげるように促すと、彼は丁寧に深い礼拝を始めたのです。

その時初めて警戒心がとけました。それと同時に先祖様が亡くなられたという深い悲しみに対して私は何をすべきか？と必死に考えました。つい先程まで悲しみの中の葬儀を勤めた私は、同じくおじいさまの菩提を弔うべきだと思ひ、合掌して念仏をと念えました。そして、「亡くなったという知らせを聞いても簡単にはベトナムに帰れないから辛いですね。」と声をかけると、グエンさんは満面の笑みで、「ベトナムではきのう、みんな、お寺でおいわいをしました、ありがとうございます。」と意外な言葉を発しました。そして、また深く礼拝をした後、晴れやかな表情で帰っていったのです。

「お祝い？」 拍子抜けした私は彼を



浄土宗 長圓寺 住職
吉水 友晃 さん

「当山長圓寺では毎年六月初旬に菩提樹まつりを開催しています。」



長圓寺
小倉北区鋳物師町 4-8
TEL 093-561-4755

見送った後、庫裡へ戻り「ベトナムの仏教」について検索しました。すると驚きの事実が判明したのです。「ベトナムの仏教は輪廻転生の思想が徹底されており、死を迎えることは新しい門出と捉え、お祝いの儀式を行う。中には三日三晩お祭りを行う地域もあるという」

私は仏教の原点と、そして生きるという事は何かという事を感じました。ベトナムの方々にとって生と死は常に隣り合わせて、死がやってきても次の生まれ変わりをしっかりと認識しているからこそ、死を新しい門出と思つて祝う事ができるのだと思ひました。これを聞いてみなさんはどのように感じましたか？

現代の人々は長寿命が当たり前となり、あたかもそう簡単に人は死なないと勘違いしても不思議ではない世の中となりました。ほんの八十年ほど前まで悲惨な戦争があつていたこの日本でさえもです。しかし約二年前、コロナ

感染症が出始めた時、罹ったら死んでしまうのではないかと誰しもが恐怖を覚えました。しかし医学・科学の力で人類はこの難局を乗り越えつつあります。

しかし忘れてはなりません。老若男女の誰もが突然、無常の嵐に誘われて死を迎えることは必ずあるのです。もちろん誰だって死ぬことは嫌です、怖いですが、でもだからこそ死を迎える時のために備えが必要であると私は思います。浄土宗の教えて申しますと、阿弥陀さまのお力によって痛み苦しみのない極楽浄土へと往生させていただくことを心から願ひ、お念佛を申しませう！ということになるのです。

こちらをご覧ください。皆様におかれましては、生と死という揺るぎのない真実・現実をしっかりと受け止めていただき、その為は何をすべきかというご自身にとっての備えを携えて、一日一日を大切に生きていただきたいと思います。合掌